

リエゾン



編集・発行
独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
<http://www.nho-nara.jp>

Liaison

Vol.29

国立病院機構 奈良医療センター

平成28年1月

医療機関の皆様へ 「リエゾン」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」という意味をもちます。
奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで付けました。

新年を迎えて

平成28年1月



奈良医療センター院長 星田 徹

この惑星で人類未踏の高齢者社会に突き進む中、医療提供体制改革の新たな取り組みとして、医療機関において病床機能報告制度、各都道府県においては地域医療構想の策定が求められ、奈良県においても現在進行中であります。地域医療構想を考える中、当院では重心身障害・筋ジストロフィー・神経難病等のセーフティーネット分野、結核や石綿肺をはじめとする呼吸器疾患分野、てんかん・パーキンソン病・痙縮・頭痛などを対象とする機能的脳神経外科分野、そして地域に密着した医療に今後も携わっていきます。

当院ではこのような病床機能に特化し、地域にとって重要な医療を担っているにもかかわらず、行政・医療関係者の理解が得られていないと感じられることがまだまだ多いのが現状です。当院の特徴あるミッションを確実に達成するために、啓発を含めさらなる努力が求められています。重症心身障害を含めたセーフティーネット分野患者の高齢化等を踏まえて、全人的医療の推進の必要性和総合診療医の教育・養成事業を進めることが重要であります。医師・看護師・メディカルスタッフ等の院内連携のみならず、地域包括ケアシステム確立の中で他の医療機関や多職種の連携など様々な情報共有が必要であります。

このために、なら地域医療連携実務者協議会「だいぶつの会」の中で、看護師や事務担当者、MSWを中心として他の地域医療連携室と医療連携の充実を進め、退院支援・在宅支援の体制作りを協力していきます。

具体的には、奈良県受託事業「重症心身障害者在宅医療支援事業のための研修会」を昨年11月から開催し、今年も継続する予定であります。在宅支援チームである看護師、理学療法士のみならず薬剤師や栄養士等を含めた摂食・嚥下、栄養管理、体位変換・移乗、皮膚・排泄ケア、特有な病態に合わせた在宅医療の充実に向けて、今年も研修会を院内で開催する予定となっております。

われわれ国立病院機構の病院は国から財政補助もなく、国民の税金を使うことなく、独立採算制であり非公務員化までなされているのに、一般国民のみならず行政の担当者、他の医療機関の職員にも認識されていない、認識が変わっていない事実があります。

国立病院機構がまだまだ国民に知られていないのであり、正しく実態を伝えていくために積極的な働きかけが必要です。サル年の1年を迎え、地域の人たちと職員が一体となって協力し、新たな医療・福祉の年となるように進めていきます。